

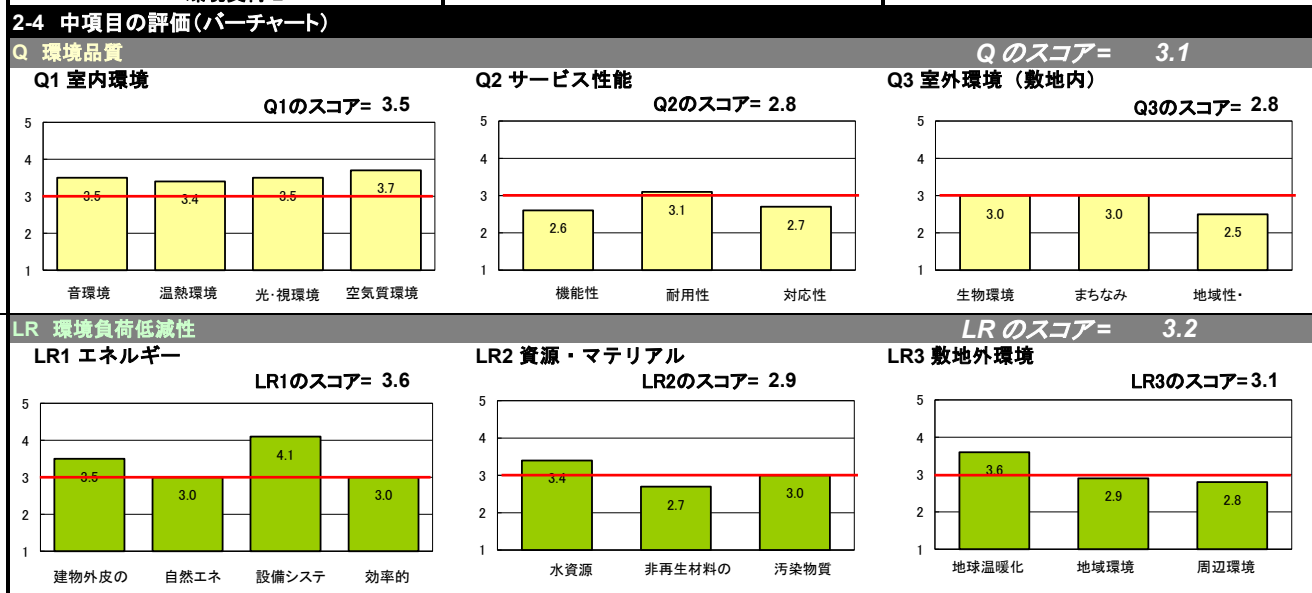
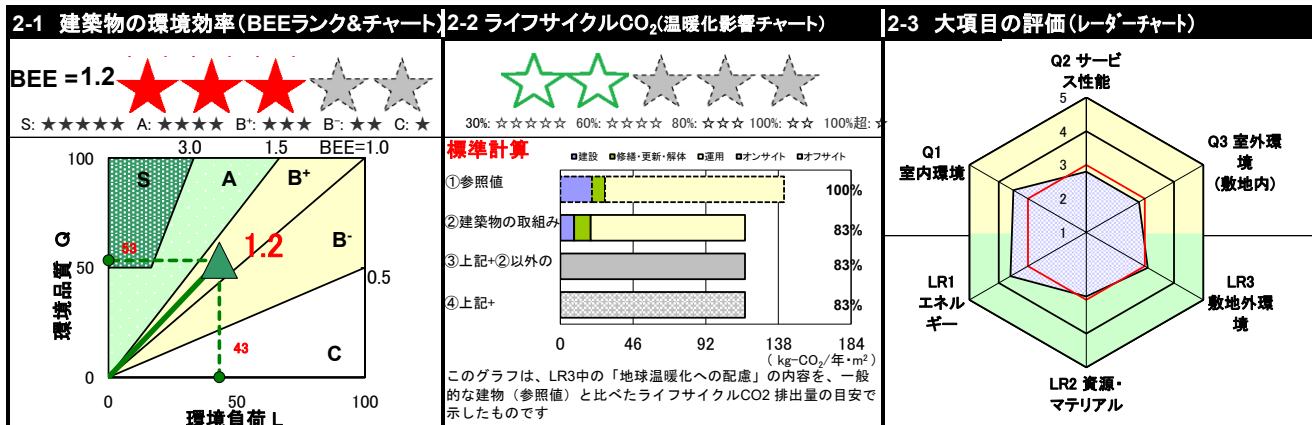
CASBEE®横浜 | 評価結果 | 8-005



■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版_通称版

■バージョン: CASBEE横浜2025年版v1.0

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)DH_谷津町計画	階数	地上7F
建設地	横浜市金沢区谷津町245番4, 366番1, 366番2, 366番3, 367番4, 367番5, 367番6	構造	RC造
用途地域	近隣商業地域、準防火地域	平均居住人員	86 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	物販店,集合住宅,	評価の段階	基本設計段階評価
竣工年	2028年1月 予定	評価の実施日	2026年3月25日
敷地面積	790 m ²	作成者	一般建築士事務所株式会社デザインネットワークス 金子 信行
建築面積	474 m ²	確認日	2026年3月25日
延床面積	2,307 m ²	確認者	一般建築士事務所株式会社デザインネットワークス 金子 信行



3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
RC造、7階建の共同住宅と店舗を計画した。	特になし	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
遮音性能T-2 断熱性能等級5 カーテンレールを設置している F☆☆☆☆建築材料を使用している	維持管理しやすい内装・外装材を使用している 劣化対策等級3	特になし
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
高効率の機器を使用している	節湯水栓と節水型便器を使用している 仕上り材の下地に軽鉄骨を使用している	ライフサイクルCO ₂ は17%削減

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<非住宅>

受付日 2026年4月24日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)DH_谷津町計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

重点項目への取組(5点満点)

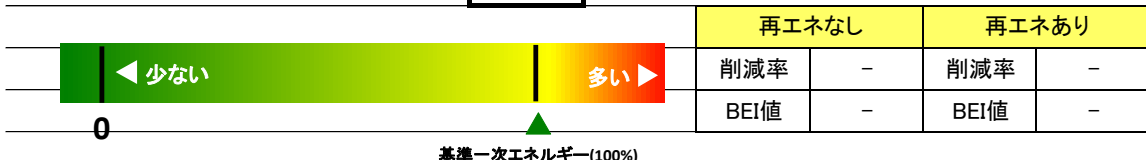
【省エネルギー性能】

2

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 - %削減

※省エネ計算対象設備なし



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

断熱性能等級5

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【快適・働きやすさ】

3

■室内環境対策 (⑨温熱環境対策 ⑩光環境 ⑪空気質環境)

F☆☆☆☆建築材料を使用する

■機能性対策 (⑫機能性 ⑬知的生産性向上の取組)

■室外環境(敷地内)対策 (⑭敷地内温熱環境の向上)

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

劣化対策等級3

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



4 横浜市重点項目についての環境配慮概要

<集合住宅>

受付日 2026年4月24日

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①～)を示し記述してください。

建物名称 (仮称)DH_谷津町計画

建築物の省エネルギー性能 (E) Energy Saving

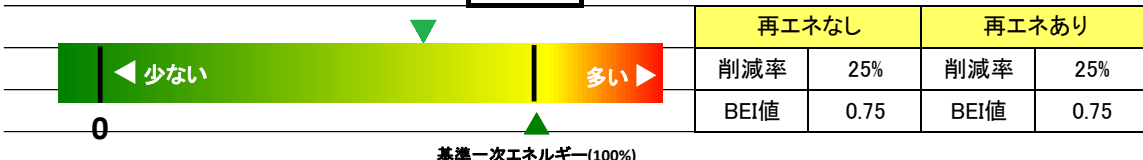
重点項目への取組(5点満点)

【省エネルギー性能】

4

■省エネルギー性能

この建物の設計一次エネルギー消費量 25 %削減



■エネルギー対策 (①建物外皮の熱負荷抑制 ②自然エネルギー利用 ③設備システムの高効率化 ④効率的運用)

断熱性能等級5

健康・快適な職住環境 (W) Smart Wellness Community

重点項目への取組(5点満点)

【健康・安心】

5

■室内環境対策 (⑤外皮性能)

◆断熱等性能等級 等級5 (相当) ※複数の等級が混在する場合は最も低い等級とする。

■健康・安心対策 (⑥健康対策 ⑦防犯対策)

F☆☆☆☆建築材料を使用する

■その他の対策 (⑧自然材料・通風の工夫など)

◆工夫の有無 なし

防災への配慮 (R) Resilience

重点項目への取組(5点満点)

【防 災】

3

■耐用性・信頼性 (⑮耐震・免震 ⑯部品・部材の耐用年数向上 ⑰信頼性)

劣化対策等級3

地域・まちづくりへの貢献 (T) Township & Townscape

重点項目への取組(5点満点)

【地域・まちづくり】

3

■室外環境(敷地内)対策 (⑱生物環境 ⑲まちなみ・景観 ⑳地域性への配慮)

太陽光発電などの導入

環境配慮技術の導入

(太陽光・熱利用、エネルギーマネジメントシステム以外)

エネルギーマネジメントシステム導入



CASBEE横浜2025年版v1.0

(仮称)DH.谷津町計画

バージョン CASBEE横浜2025年版v1.0

スコアシート		重点項目		建物全体・共用部		住居・宿泊部分		全体	
配慮項目		<非住宅>	<集合住宅>	評価点	重み係数	評価点	重み係数		
Q 建築物の環境品質				—	—	—	—	3.1	
Q1 室内環境				—	0.40	—	—	3.5	
1 音環境				3.9	0.15	3.4	1.00	3.5	
	1.1 室内騒音レベル			3.0	0.49	3.0	0.50	—	
	1.2 遮音			5.0	0.49	3.8	0.50	—	
	1	開口部遮音性能		5.0	1.00	5.0	0.30	—	
	2	界壁遮音性能		—	—	3.0	0.30	—	
	3	界床遮音性能(軽量衝撃源)		—	—	4.0	0.20	—	
	4	界床遮音性能(重量衝撃源)		—	—	3.0	0.20	—	
	1.3 吸音			1.0	0.03	—	—	—	
	2 温熱環境			3.0	0.35	3.5	1.00	3.4	
	2.1 室温制御			3.0	1.00	3.7	0.50	—	
1	室温	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	—	—	3.0	0.63	—	
2	外皮性能	快適・働きやすさ 健康・安心	⑨温熱環境 ⑤外皮性能	3.0	1.00	5.0	0.38	—	
3	ゾーン別制御性	快適・働きやすさ	⑨温熱環境	—	—	—	—	—	
2.2 湿度制御			快適・働きやすさ	⑨温熱環境	—	4.0	0.20	—	
2.3 空調方式			快適・働きやすさ	⑨温熱環境	—	3.0	0.30	—	
3 光・視環境				2.4	0.25	4.0	1.00	3.5	
	3.1 昼光利用			1.9	0.33	4.0	0.50	—	
	1	昼光率	快適・働きやすさ	⑩光環境	1.0	0.52	5.0	0.50	—
	2	方位別開口	快適・働きやすさ	⑩光環境	—	—	3.0	0.30	—
	3	昼光利用設備	快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.48	3.0	0.20	—
	3.2 グレア対策			2.0	0.26	4.0	0.50	—	
	1	昼光制御	快適・働きやすさ	⑩光環境	2.0	1.00	4.0	1.00	—
	3.3 照度			快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.13	—	—
	3.4 照明制御			快適・働きやすさ	⑩光環境	3.0	0.28	—	—
	4 空気質環境				3.5	0.25	3.8	1.00	3.7
4.1 発生源対策			4.0	0.59	4.0	0.63	—		
1		化学汚染物質	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	4.0	1.00	4.0	1.00	—
4.2 換気			3.0	0.39	3.6	0.38	—		
1		換気量	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	—
2		自然換気性能	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	—	—	5.0	0.33	—
3		取り入れ外気への配慮	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	3.0	0.33	—
4.3 運用管理			3.0	0.03	—	—	—		
1		CO ₂ の監視	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	—	—	—
2		喫煙の制御	快適・働きやすさ	⑪空気質環境	3.0	0.50	—	—	—
Q2 サービス性能				—	0.30	—	—	2.8	
1 機能性				2.7	0.40	2.6	1.00	2.6	
	1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40	3.0	0.60	—	
	1	広さ・収納性	快適・働きやすさ	⑫機能性	—	—	—	—	—
	2	高度情報通信設備対応	快適・働きやすさ	⑫機能性	—	—	3.0	1.00	—
	3	バリアフリー計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	3.0	1.00	—	—	—
	1.2 心理性・快適性			1.0	0.30	2.0	0.40	—	
	1	広さ感・景観	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.05	3.0	0.50	—
	2	リフレッシュスペース	快適・働きやすさ	⑫機能性	2.0	0.05	—	—	—
	3	内装計画	快適・働きやすさ	⑫機能性	1.0	0.91	1.0	0.50	—
	1.3 維持管理			4.0	0.30	—	—	—	—
1	維持管理に配慮した設計	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	—	—	—	
2	維持管理用機能の確保	快適・働きやすさ	⑫機能性	4.0	0.50	—	—	—	
2 耐用性・信頼性				3.1	0.30	—	—	3.1	
	2.1 耐震・免震・制震・制振			3.0	0.50	—	—	—	
	1	耐震性(建物のこわれにくさ)	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.80	—	—	—
	2	免震・制震・制振性能	防災	⑬耐震・免震	3.0	0.20	—	—	—
	2.2 部品・部材の耐用年数			3.7	0.30	—	—	—	
	1	躯体材料の耐用年数	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	—	—	—
	2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	2.0	0.20	—	—	—
	3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	4.0	0.10	—	—	—
	4	空調換気ダクトの更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.10	—	—	—
	5	空調・給排水配管の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	5.0	0.20	—	—	—
6	主要設備機器の更新必要間隔	防災	⑭部品・部材の耐用年数向上	3.0	0.20	—	—	—	
2.4 信頼性			2.8	0.20	—	—	—	—	
1	空調・換気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—	
2	給排水・衛生設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—	
3	電気設備	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—	
4	機械・配管支持方法	防災	⑰信頼性	3.0	0.20	—	—	—	
5	通信・情報設備	防災	⑰信頼性	2.0	0.20	—	—	—	
3 対応性・更新性				3.0	0.30	2.7	1.00	2.7	
	3.1 空間のゆとり			3.0	0.04	2.4	0.50	—	
	1	階高のゆとり		3.0	0.60	2.0	0.60	—	
	2	空間の形状・自由さ		3.0	0.40	3.0	0.40	—	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.04	3.0	0.50	—		

3.3	設備の更新性			3.0	0.92			
	1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	3	電気配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
	4	通信配線の更新性		3.0	0.10	-	-	-
	5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	-
	6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30		-	-	2.8
1	生物環境の保全と創出	地域・まちづくり	⑩生物環境の保全と創出	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮	地域・まちづくり	⑨まちなみ・景観への配慮	3.0	0.40		-	3.0
3	地域性・アメニティへの配慮			2.5	0.30		-	2.5
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域・まちづくり	⑳地域性への配慮	2.0	0.50	-	-
	3.2	敷地内温熱環境の向上	快適・働きやすさ	⑭敷地内温熱環境の向上	3.0	0.50	-	-
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.2
LR1 エネルギー				-	0.40		-	3.6
1	建物外皮の熱負荷抑制	省エネルギー性能	①建物の熱負荷抑制	3.5	0.20	-	-	3.5
2	自然エネルギー利用	省エネルギー性能	②自然エネルギー利用	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化			4.1	0.50		-	4.1
	集合住宅以外の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	2.0	0.14	-	-	-
	集合住宅の評価	省エネルギー性能	③設備システムの高効率化	4.5	0.86		-	-
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	0.14	-	-	-
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50		-
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50		-
	集合住宅の評価			3.0	0.86	-	-	-
	4.1	モニタリング	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-
	4.2	運用管理体制	省エネルギー性能	④効率的運用	3.0	0.50	-	-
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	2.9
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水		4.0	0.40	-	-	-
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60		-	-
		1	雨水利用システム導入の有無	3.0	0.70	-	-	-
		2	雑排水等利用システム導入の有無	3.0	0.30	-	-	-
2	非再生性資源の使用量削減			2.7	0.60	-	-	2.7
	2.1	材料使用量の削減		3.0	0.10		-	-
	2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.20		-	-
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用		3.0	0.20		-	-
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		1.0	0.20		-	-
	2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.10		-	-
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み		4.0	0.20		-	-
3	汚染物質含有材料の使用回避			3.0	0.20	-	-	3.0
	3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	-
	3.2	フロン・ハロンの回避		3.0	0.70		-	-
		1	消火剤	-	-	-	-	-
		2	発泡剤(断熱材等)	3.0	0.50		-	-
		3	冷媒	3.0	0.50	-	-	-
LR3 敷地外環境				-	0.30		-	3.1
1	地球温暖化への配慮			3.6	0.33		-	3.6
2	地域環境への配慮			2.9	0.33	-	-	2.9
	2.1	大気汚染防止		3.0	0.25	-	-	-
	2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50		-	-
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		2.7	0.25		-	-
		1	雨水排水負荷低減	3.0	0.25	-	-	-
		2	汚水処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-
		3	交通負荷抑制	2.0	0.25	-	-	-
		4	廃棄物処理負荷抑制	3.0	0.25	-	-	-
3	周辺環境への配慮			2.8	0.33	-	-	2.8
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	-
		1	騒音	3.0	1.00	-	-	-
		2	振動	-	-	-	-	-
		3	悪臭	-	-	-	-	-
	3.2	風害、砂塵、日照阻害の抑制		3.0	0.40		-	-
		1	風害の抑制	3.0	0.70		-	-
		2	砂塵の抑制	1.0	-	-	-	-
		3	日照阻害の抑制	3.0	0.30		-	-
	3.3	光害の抑制		2.3	0.20		-	-
		1	屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	2.0	0.70		-	-
		2	壁光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	3.0	0.30	-	-	-
上記以外の重点項目					-	-	-	-
<事務所用途>					-	-	-	-
	知的生産性向上への取組		快適・働きやすさ	⑬知的生産性向上への取組	-	-	-	-
<住宅用途>					-	-	-	-
	健康と安心				-	-	-	-
	1	化学汚染物質の対策	健康・安心	⑥健康対策	5.0	-	-	-
	2	適切な換気計画	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-
	3	結露・カビ対策	健康・安心	⑥健康対策	3.0	-	-	-
	4	犯罪に備える(共用部の防犯対策)	健康・安心	⑦防犯対策	4.0	-	-	-